

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじん きょうとうがくはやしかたどうめいかい			団体ウェブサイトURL
	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会			https://noh-doumeikai.com/
代表者職・氏名	理事長・河村 大			
制作団体所在地	〒	616-8372	最寄り駅(バス停)	JR嵯峨嵐山駅
	京都市右京区嵯峨天龍寺広道町10-10 前川方			
電話番号	075-600-2259			
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじん きょうとうがくはやしかたどうめいかい			団体ウェブサイトURL
	一般社団法人 京都能楽囃子方同明会			https://noh-doumeikai.com/
代表者職・氏名	理事長・河村 大			
公演団体所在地	〒	616-8372	最寄り駅(バス停)	JR嵯峨嵐山駅
	京都市右京区嵯峨天龍寺広道町10-10 前川方			
制作団体 設立年月	1918年12月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	理事長 河村 大 理事 左鴻泰弘、吉阪一郎、成田有辞、前川光範 監事 西村保美		京都を主な活動地域とする玄人能楽師囃子方22名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く		本事業担当者名	谷口正壽
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者名	成田有辞
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	taniguchi@noh-doumeikai.com			

<p>制作団体沿革</p>	<p>大正7年、在京都の能楽囃子方が集まり「同盟会」を立ち上げました。戦中戦後の混乱期に一時自然解散しましたが、昭和30年「同和会」として再出発しました。以後、毎年1回囃子方ならではの公演に取り組み、昭和61年に、名称を「同明会」に改めました。平成15年より8年間、能楽囃子の音楽性にスポットを当てた、「囃子堂」公演にも取り組み、「同明会能」とあわせて毎年2回の公演を行ってきました。平成24年10月に一般社団法人京都能楽囃子方同明会として法人を設立。25年度よりワークショップを中心とした学校公演や、子ども達だけで実演する、こども能楽囃子教室など次世代に能楽の魅力を伝える活動を展開しています。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>平成25年度より学校公演実績あり。累計40公演 令和2年度 大津親子能楽鑑賞会 狂言「附子」 能「高砂」 1公演 学校・アート・出会いプロジェクト 「体験！能囃子の世界」6公演 令和3年度 学校・アート・出会いプロジェクト 「体験！能囃子の世界」2公演 令和4年度 「こども能楽囃子教室」2公演 令和5年度 学校・アート・出会いプロジェクト 「体験！能囃子の世界」2公演 「こども能楽囃子教室」2公演</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成25年度 大阪府立刀根山支援学校(他事業) 平成26年度 三重県立特別支援学校北勢きらら学園、県立奈良西養護学校 平成27年度 青森県立若葉養護学校 平成28年度 長崎県立虹の原特別支援学校 平成30年度 福島県立相馬支援学校 令和3年度 熊本県立松橋西支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/rBBbtIAPzA0</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>無し</p>	
		<p>PW:</p>	<p>無し</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	囃子堂 ～音楽として聴く能～			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介 2. 各楽器解説 3. 早笛 4. カケ声の不思議 5. 祈 6. 流シ 7. カケ声で表現してみよう 休憩 8. 三番三共演 9. 神楽 10. 獅子 11. 終わりの挨拶と質問コーナー <div style="text-align: right;">公演時間 95 分</div>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>能楽の音楽性にスポットを当てた、ライブ感覚の公演です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶と能楽の歴史の紹介 …居住まいを正し、きちんと挨拶をしたあと、能楽の概要や歴史をわかりやすく説明します。 2. 各楽器解説…各楽器の説明をして、能楽の音楽としての魅力を解説します。 3. 早笛…龍神や鬼が登場する際に演奏される軽快で、ハイテンポな登場の音楽です。 4. カケ声の不思議…能楽囃子の特徴であるカケ声を体験して頂きます。カケ声を実際にかけて、間のとり方がどのように変わるのかを体験します。 5. 祈…鬼(般若)となった女性の情念に対し、山伏が法力によって退けるべく対決する場面に演奏される、緊迫感あふれる曲です。この曲は、曲の長さが定まっていない見計(みはからい)という技法を使います。太鼓のカケ声により曲の長さが変動していく様子をご覧頂くため、児童生徒に曲の長さを決めてもらい、臨機応変に対応できる能楽囃子の柔軟性を体感して頂きます。 6. 流シ…互いの気を感じて打つ能楽囃子の最高技法を手拍子で体験します。 7. カケ声で表現してみよう…カケ声のかけ方の違いにより、どのように聞こえるかを体験し、また色々な場面を好きなカケ声で表現して頂きます。 休憩 希望者は楽器を体験できます。(ふれあいタイム) 8. 三番三共演…翁に付随する狂言の舞曲です。大変めでたい曲で、同じリズムを繰り返し演奏します。児童・生徒と共演することで会場全体が一体となる楽しい演奏としたいと思います。 9. 神楽…天照大神が隠れた、天岩戸の前で天鈿女命が舞う舞曲です。リズム、ノリの変化に富み、高い演奏技術が要求される楽曲で、大変緩急の激しく観る者をワクワクさせる曲です。 10. 獅子…文殊菩薩の霊獣獅子の舞曲です。静と動・間合のやりとり・気迫が充実した曲で、これぞ能楽囃子の真髄と言えます。 11. 終わりの挨拶と質問コーナー…様々な疑問にお答えします。最後に始まりと同じく、居住まいを正して、きちんと挨拶をします。 			
演目選択理由	<p>能楽は、演劇・舞踊・音楽・文学・美術など様々な要素が入った、総合芸術です。この公演は能楽の音楽である、囃子にスポットを当て、独自の音楽性を紹介します。</p> <p>内容は、大人が聞いても十分に満足いく芸術性の高い曲ばかりで、退屈しないようなテンポの速く軽快な「早笛」、緊迫感あふれる「祈」、舞曲の原点と言える「神楽」、気迫が充実した「獅子」などを織り交ぜ、能楽囃子の魅力をわかりやすく伝えられるように選曲しました。</p> <p>児童生徒との共演曲「三番三」は同じリズムの繰り返しなので児童生徒でも演奏しやすいことから選びました。</p> <p>この公演は、特に能楽囃子の魅力が感じられる演目ばかりです。ともすれば難解と言われる能楽でも、音楽である囃子ならば理解と言うものを必要とせず、純粋に見て聞いて面白いと感じて頂けます。</p> <p>能楽囃子は、わずか4人で30人のオーケストラに匹敵するといわれます。その力の源は「気迫」にあります。「気迫」とは、見える物ではなく、聞こえる物でもなく、感じるものです。この、目には見えない、耳には聞こえない「何か」を感じとることで、現代日本人が忘れてしまった五感以外の感覚を呼び覚まし、子ども達の感性を育みたいと思います。</p> <p>能楽の「魅力」「迫力」を存分に伝え、西洋の「ド・レ・ミ」(絶対の音楽)とは全く違う、日本独自の能楽(相対の音楽)の素晴らしさが伝わる公演にしたいと思います。</p>			

児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>児童生徒共演のコーナーでは、児童生徒達は、ワークショップで体験した「三番三」の小鼓と大鼓を打ちます。事前に選抜した小鼓3名、大鼓3名の1組6名×3組の児童生徒が、実際に楽器を持ち、小鼓と大鼓を打ちます。この時、出演能楽師の笛、小鼓、大鼓が加わります。選ばれなかった児童生徒達も手拍子で参加し、全員でカケ声をかけて、会場全体での共演となります。カケ声で表現してみようでは、能楽囃子の基本である、カケ声を全員で体験します。休憩中に、希望者は小鼓と大鼓の体験ができます。直にふれあうことで、児童生徒達と能楽師の距離を縮めたいと思います。</p>																				
出演者	<p>笛 杉 市和、森田保美、左鴻泰弘、杉信太郎の内1名 小鼓 林吉兵衛、吉阪一郎、曾和鼓堂、古田知英、林 大和、林 大輝の内1名 大鼓 河村 大、石井景之、谷口正壽、井林久登、渡部 諭、河村凜太郎の内1名 太鼓 前川光長、井上敬介、前川光範の内1名 案内人 谷口正壽、林 大輝の内1名 (太字は重要無形文化財総合指定保持者) 計5名</p>																				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	<table border="1"> <tr> <td>出演者:</td> <td>5</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>スタッフ:</td> <td>1</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計:</td> <td>6</td> <td>名</td> </tr> </table>	出演者:	5	名	スタッフ:	1	名	合計:	6	名	運搬	<table border="1"> <tr> <td>積載量:</td> <td>0.4</td> <td>t</td> </tr> <tr> <td>車 長:</td> <td>4.2</td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>台 数:</td> <td>1</td> <td>台</td> </tr> </table>	積載量:	0.4	t	車 長:	4.2	m	台 数:	1	台
出演者:	5	名																			
スタッフ:	1	名																			
合計:	6	名																			
積載量:	0.4	t																			
車 長:	4.2	m																			
台 数:	1	台																			

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:15	9:15~9:45	10:45~12:20	10分	12:30~13:00	13時15分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	11日	12日	5日	14日	15日	
	11月	12月	1月	計	101日	
	20日	10日	14日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	18人
		鑑賞人数目安	800人

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



図1
「獅子」上演の様子
毛氈設置に必要な寸法 縦2m×横5.4m



図2
「三番三共演」の様子
小鼓3人、大鼓3人×3組、計18人が舞台に出て共演します。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

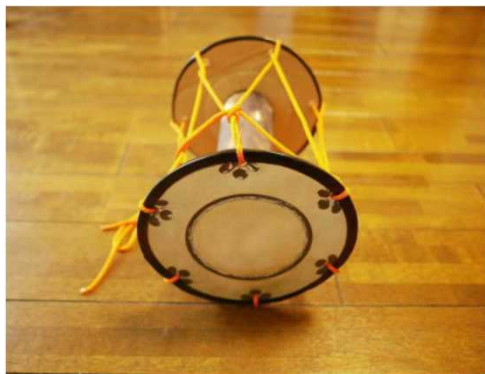


図3 図4

小鼓、大鼓レプリカ

ワークショップ後、当方が空き缶と段ボール紙で作った、本物そっくりの小鼓と大鼓のレプリカを使い練習して頂きます。各3丁ずつ(共演1組分)をお渡しします。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100人程度
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>公演当日に共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。 能楽という日頃見ることのない芸術を親しみやすく伝えるため、それぞれの専門家である、小鼓方・笛方・大鼓方(全員能楽師)の計3名でワークショップをします。なぜカケ声を掛けるのか、正座をして演奏するのか、そして何が必要なのかを解説します。カケ声をかけるのを恥ずかしがる子が多いと思われるので、まずは声を出す練習に力を置きます。 能楽は日常の稽古が大切です。ワークショップ終了後に、小鼓、大鼓の構え方、打ち方の練習用に小鼓と大鼓のレプリカをお貸しします。それを使って繰り返し練習してもらいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始まりの挨拶…居住まいを正し、きちんと挨拶します。 2. 能楽ってなあに?…能楽の構成や特徴をわかりやすく説明します。 3. 小鼓ってどんな楽器?…小鼓の打楽器でありながら、一つの楽器で音色を変えられる、世界的に見ても珍しい希な構造や演奏法を紹介しします。 4. 大鼓ってどんな楽器?…大鼓は小鼓とよく似ていますが、性質は全く正反対です。特徴と演奏法を紹介しします。 5. 能楽囃子を聞いてみよう。…「敦盛 二段之舞」を実演します。 6. カケ声を掛けよう。…どうしてカケ声を掛けるのかを解説し、カケ声には何が大切なのかを解説し、みんなでカケ声を掛けます。 7. 能楽囃子を聞いてみよう。…公演当日に共演する「三番三」を実演します。 8. 三番三を打ってみよう。…公演当日に、共演する「三番三」の小鼓と大鼓を指導します。 <p>休憩 10分</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 小鼓と大鼓を体験しよう。…児童生徒達に実際に、楽器に触れていただきます。 10. 質問感想コーナー…不思議に思ったこと、興味を持ったことなど、何でもお答えします。 11. 終わりの挨拶…始まりと同じく居住まいを正してきちんと挨拶をします。 <p>(95分)</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>本公演で共演する「三番三」の練習を主眼とします。 西洋を起源とする音楽に慣れ親しんだ子ども達や先生方には、能楽は、日常から縁遠い芸術かも知れませんが、ワークショップを通じて能楽とは特別・特殊なものではなく、身近なものだと感じてほしいと思います。そして、日本の伝統的な姿勢やカケ声・間を知り、世界に誇る能楽の特徴を理解して、「肚を据えて、気を込める。」ことを体験することにより、日本人が元来持っている、芯の強さを身に付けて欲しいと思います。 能楽は礼に始まり、礼に終わります。挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。姿勢を正し、心を添えて挨拶することで、相手への尊敬を表します。互いに尊敬し合うことで、自他の存在を認め、心を開き近づくことができると知って欲しいと思います。 また、能楽では、数百年前の楽器を当たり前に使っています。これは、楽器のことを「道具」と呼び、とても大切にしているからです。大事に使えばいつまでも使える。道具の大切さを伝えるなど、教科書からは得られない、伝統的普遍的価値観を伝えたいと思います。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>本物の道具(楽器)を使って、小鼓・大鼓をそれぞれ体験していただきます。ほとんどの子ども達は、大鼓や小鼓という伝統楽器に触れたことがないと思われるので、一人一人に持ち方から丁寧に指導します。ワークショップ終了後は本公演に向けての練習していただきます。練習の際に使う、小鼓・大鼓のレプリカをそれぞれ3丁ずつと、練習用の動画を収録したDVDとテキストをお渡ししますので、動画を見ながら、繰り返し練習していただきます。</p> <div data-bbox="523 1585 1289 2018" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">ワークショップイメージ図</p> </div>		

本事業への申請理由

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同明会】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 「能楽」は、ユネスコの世界無形遺産に登録されるなど、世界中から高評価を得ています。しかしながら、観客の高齢化もあり国内の観客動員数は年々減少しています。このままでは、数十年後には消滅してしまうのではとさえ思えるほどの、危機的状況です。このような状況になった原因の一つに、現代の日本人は日本のことにあまり興味を持たないという事があるかと思えます。これは、幼少の頃より西洋文明の教育ばかり受け、日本の伝統を学ぶ機会が無かったことが一因かと思えます。当会は、この巡回公演事業を通して、世界に誇る日本の伝統芸能「能楽」にふれていただき、古典でありながら現代でも通用する芸術性の高さ、素晴らしさを、次代を担う子ども達に伝え、日本の伝統を守っていくことが使命と考えます。 その上で当会は、能楽の中でも特に親しみやすい音楽の「能楽囃子」にスポットを当てた公演をします。 能楽囃子は、西洋音楽の「ド・レ・ミ」(絶対の音楽)とは全く違う、日本独自の「間と気」で作られ、場面場面を観客の心に直接うったえかける音楽(相対の音楽)です。その素晴らしさを感じられる公演にしたいと思えます。 能楽の特徴的な芸術的要素の一つに「気迫」というのがあります。「気」とはすなわち「心」です。演者や演奏者は、自身の「気」を共演者に伝えると同時に、共演者の「気」をとらえながら演技・演奏することで独特の緊迫感が生まれます。この「気」をカケ声や舞の姿勢によって表現することで、子供達のコミュニケーション力の向上につなげたいと思えます。そして、「目には見えない、耳には聞こえない何か」を感じとることが、現代日本人が忘れてしまった五感以外の感覚を呼び覚まし、子ども達の感性を育み、芸術鑑賞能力の向上につながると信じます。また、能楽の基本である「腰を入れ、肚を据えて、気を込める。」ことを体験することにより、日本人が元来持っている、芯の強さを身に付けて欲しいと思えます。 能楽は礼に始まり、礼に終わります。挨拶は、コミュニケーションの第一歩です。姿勢を正し、心を添えて挨拶することで、相手への尊敬を表します。互いに尊敬し合うことで、自他の存在を認め、心を開き近づくことができると知って欲しいと思えます。将来、子ども達が海外の方と交流する時に、日本にはこのようなすばらしい芸術がある、このような伝統があることを伝えて欲しいと思えます。 最後に、子ども達と能楽師がふれあうことで、「能楽」とは特別・特殊なものではなく、身近なものだと感じてもらいたいと思えます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 公演の為に公演責任者(コーディネーター)を置き、実施校と緊密に連絡を取ります。学校側は、能楽公演は初めてのところが多いかと思えます。「児童生徒達が、能楽という普段見慣れない物をちゃんと鑑賞できるだろうか。」「公演の為に何が必要で、どのように応対したら良いのだろうか。」「子ども達が小鼓・大鼓ができるのだろうか。」など、不安に思われるかもしれません。 そこで、公演責任者は、この公演は、小中学生向けにわかりやすく、体験を交えた面白い演目を用意しており、共演曲の「三番三」は単純なリズムを繰り返すだけですぐに覚えられる事などをお伝えし、なごやかにワークショップや公演を進めていくこと。鑑賞人数により体育館のアリーナを使うかステージを使うかを協議し、5名程度が休憩できる控え室(空き教室1つ)、普通車2台分の駐車スペースを確保することなど、公演の意図や、舞台設営に必要なスペースを丁寧に説明するほか、実施校のスケジュール要望を出来るだけ聞き、打ち合わせて日程調整をします。 また、公演やワークショップの詳しい内容を、事前に知りたい学校は、当会のホームページ上で、プログラムを見られるようにします。 そして、実施校に、各様式ファイルを送り、提出先や提出期限などをご案内して書類作成が円滑に進むようにします。 能楽は日常の稽古が大切です。学校にはたくさんの楽器がありますが、小鼓・大鼓は無いと思えます。そこで、小鼓と大鼓のレプリカをお渡しし、公演当日まで繰り返し練習できるようにお稽古用DVDを使って小鼓、大鼓の構え方、三番三の打ち方を習得してもらいます。</p>
--	--

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名 一般社団法人 京都能楽囃子方同盟会】

<p>C区分で事業を実施するに当たっての工夫</p>	<p>① 離島・へき地等における公演実績 令和</p>
	<p>3年度 西之表市立古田小学校 演目「囃子堂」 南種子町立南種子中学校 演目「囃子堂」 小林市立須木小学校 演目「囃子堂」 令和4年度 帯広市立八千代中学校 演目「囃子堂」 令和5年度 岩 国市立小瀬小学校 演目「囃子堂」 安芸高田市立高宮中学校 演目「囃子堂」 南種子町立中平小学校 演目 能囃子「獅子」と狂言「附子」</p> <p>②地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</p> <p>能楽は、舞、演劇性、音楽性、美術性など様々な芸術要素が合わさった、総合芸術です。その中で、当企画は、特に親しみやすい音楽性にスポットを当て、小規模公演ながら大人でも満足するほどの芸術性の高い公演です。元々能楽は特殊な照明や音響機材を使用しないため、学校にある既存の機器のみで対応できます。特に当企画は機材荷物が少なく、仕込み時間も短く、機動力があります。そのため、へき地や離島などでも、公演・ワークショップの質が落ちることはありません。ただ、小さな離島などでは、公共交通機関や、車両での移動が難しい場合があります。その様な場合は、キャスター付きのスーツケースを使用したり、毛氈を軽量タイプにするなど、荷物の軽量化を図り、徒歩のみで移動できるようにします。</p> <p>日程では、ワークショップと本公演を連続した日程で実施したり、学校側が希望すれば、午前中にワークショップ、午後から本公演を行って1日で公演を実施する。1時間程度で他の実施校との移動が可能であれば、ワークショップと本公演を連続して1日に2公演ずつを行うなど、効率的な日程を組みます。</p> <p>③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫</p> <p>公演演目を能楽の音楽部分にスポットを当てたプログラムにすることで、出演者を5名で高い芸術性を維持しながら、出演費を抑えます。舞台は、毛氈を設置するのみと簡易にし、スタッフを1人のみとし、舞台費を抑えます。また、荷物をコンパクトにまとめて送り、現地にて調達した小型車2台で運搬・移動をし、割引航空券を早期予約するなどし、最小限の人数で公演することで派遣費を抑えます。</p>